

Where there is no Vision, the people perish

2012年12月号

北九州信徒聖書学校

第118号

月刊

על-פליי מים

流れのほとり

連絡先 〒807-8691 北九州市八幡南郵便局私書箱 26 号 本部 TEL&FAX093(692) 8592
所在地 〒802-0004 北九州市小倉北区鍛冶町 2-3-13 北九州 YMCA 内
ホームページ <http://bible-school.name/> E-Mail hope_to_tomorrow.y@san.bbq.jp

主イエスキリストのご降誕を
お祝い申し上げます。

「言の内に命があった。

命は人間を照らす光であった。

光は暗闇の中で輝いている」

(ヨハネ 1 章 4～5 節)

北九州信徒聖書学校

理事長 山口 晶久

校長 野村 幸生

クリスマスの祝福

前校長 森上 洋介

本誌の読者は聖書が教える本当のクリスマスが何であるかは十分にご存じですからそこは全部省き、私がクリスマスとどう関わって来たかを証します。

1945 年 8 月、日本はポツダム宣言を受諾

して第 2 次世界大戦の敗戦国になりました。敗戦と同時に朝鮮、台湾、樺太、南洋群島などの旧植民地を全部放棄し、内地と言われた北海道、本州、四国、九州は連合軍の占領下に置かれました。連合軍の中心はアメリカ合衆国で、中心人物は最高司令官マッカーサー元帥でした。彼は次々と占領政策を実行しました。天皇を現人神とした戦時中の極端な軍国主義を否定し、旧「大日本帝国憲法」を改正する形式で新憲法「日本国憲法」を公布しました。民主主義と平和国家の日本再建が表看板でした。

その結果、キリスト教の影響を受けた欧米の文化や習慣が全国に一気に広まりました。阿蘇外輪山の麓（菊池郡水源村、現在は合併し菊池市）に育った私も 1948 年、小学校に入学する頃には、「クリスマス」という言葉を聞きました。都会では、年末に何か大騒ぎするという程度の知識です。田舎では、正月の準備に忙しかつたので、これは言葉を覚えただけのクリスマスでした。

1957 年 3 月に中学校を卒業しました。農村人口が一番増えた時代です。同級生 102 人は、家業の農家を継ぐ者以外は 15 人ほど

が高校に進学し、他は都会に就職しました。私は進学希望でしたが家庭の事情で就職しました。その頃、1950年に創立された警察予備隊が保安隊、自衛隊と名前を変え、中学卒の自衛隊生徒（少年自衛官）を募集しました。応募しましたところ採用されたので、茨城県勝田市の陸上自衛隊施設学校で4年間の教育訓練を受けました。同期生90人は全国から集まってまいりました。3年生になった1959年10月、部隊は実習のために愛知県豊川駐屯地と茨城県古河駐屯地に1年間派遣されました。豊川駐屯地には伊勢湾台風が上陸した日に着任しました。駐屯地の諸部隊は救助活動で騒然としていました。救助活動が一段落した11月8日、今日も不思議に思うのですが、キリスト教会に出席したいとの思いが忽前と湧いてきました。そこで、教会の住所を調べ、アッセンブリー教団豊川教会に出席しました。藤川牧師と信徒の皆さんが心から歓迎してくれました。私は感激してその日に聖書と聖歌を買い求め、毎週教会に出席しました。いわゆる求道者になったのです。もちろん教会のクリスマスも体験しました。その時から53年間、毎年クリスマスを祝って来ました。

豊川教会に出席した1年後の1960年12月25日、茨城県勝田市の日本基督教団勝田教会で飛田泰二牧師から罪の悔い改め、イエス様を信じて洗礼を受けました。その1年後、1961年のクリスマスには古河駐屯地近くの日本同盟教団勝鹿教会（現在の総和キリスト教会）川田フミ子牧師に「献身して牧師になりたい。」と、相談しました。豊川、勝田、勝鹿の三教会に出席して知ったのは、「キリスト教は教団、教派に分かれていても信仰の中心には大差がない。」ということでした。このことは、牧師としての

私の生き方に大きな影響を与えました。「諸教会が協力すれば神様は祝福して下さい」ということを学んだのです。

神学校を卒業した後、大分県佐伯市で宣教師が設立した「地方伝道団」で20年ほど奉仕しました。その頃のクリスマスの思い出は、毎年24日前後の夜クリスマス祝会を教会堂で開き、祝会終了後の10時過ぎから中高生、青年たちを中心にキャロルと称して教会堂を出て、佐伯市街の南端から北端まで讃美歌を歌いながら行進して歩いたことです。その距離は10キロ以上になりました。教会役員さん宅では湯茶や茶菓が用意してあり、暖を取り休憩しました。教会堂に帰って着くのは深夜の3時過ぎでした。そのまま教会堂で朝まで起きていて、翌日は受験勉強の補習のために登校する高校生もいました。あの頃の若者も今は60代半ばになっている筈です。懐かしい思い出のクリスマスです。・・・

「クリスマスの恵みとは何ですか。」と、聞かれるなら、罪人の私が天国への希望を持って今日も生かされていることです。

（日本イエス・キリスト教団小倉教会担任牧師）

Is there a Santa Claus?

1897年、アメリカ合衆国のニューヨーク・サン新聞社に8才の少女が投稿した。

「サンタクロースなんかいないんだ。」って、言っている子がいます。パパに聞いてみたら、「サン新聞に、問い合せてごらん。」と言いました。お願いします。教えてください。サンタクロースって、本当にいるんでしょうか？

Verginia O Hanlon

その質問に、同社の記者が返事を社説欄に書いた。

あなたの友達は間違っています。きっとその子の心には、今はやりの何でも疑ってかかる、疑いや根性というものが、しみ込んでいるのでしょう。疑り屋は、目に見えるものしか信じません。心のせまい人たちです。心がせまいために、自分が分からないことは、みんな嘘だと決めているのです。

けれども、人間の頭で考えられることなんて、大人も、子どもも限られています。

私たちの住んでいる、この限りなく広い宇宙では、人間の知恵は一匹の虫のように、そう、それこそ、アリのように小さいのです。その広く、また深い世界を推し測るには、世の中のこと全てを理解し、全てを知ることのできるような、大きな深い知恵が必要なのです。

そうです、バージニア。サンタクロースはいるというのは、決して嘘ではありません。この世の中に、愛や人への思いやりや、真心があるのと同じように、サンタクロースも確かにいるのです。あなたにも、分かるでしょう。世界に満ち溢れている愛や真心こそ、あなたの毎日の生活を美しく楽しくしているものなのだとすることを。

もしサンタクロースがいなかったら、この世の中は、どんなに暗く寂しいことでしょう！あなたのような可愛らしい子どものいない世界が、考えられないのと同じように、サンタクロースのいない世界なんて想像できません。サンタクロースがいなければ、人生の苦しみをやわらげてくれる、子どもらしい信頼も、詩も、ロマンスも、無くなってしまうでしょうし、私たち人間の味わう喜びは、ただ目に見えるもの、手でさわるもの、感じるものだけになってしまうでしょう。また、子ども時代に世界に満

ち溢れている光も消えてしまうことでしょう。

サンタクロースがいない、ですって！サンタクロースが信じられないというのは、妖精が信じられないのと同じです。ためしに、クリスマス・イブに、パパに頼んで探偵を雇って、ニューヨーク中の煙突を見張ってもらったらどうでしょうか？ひよっとすると、サンタクロースを、捕まえることができるかも知れません。しかし、たとえ、煙突から降りてくるサンタクロースの姿が見えないとしても、それが何の証拠になるのです？サンタクロースを見た人はいません。けれども、それはサンタクロースがいないという証明にはならないのです。

赤ちゃんのガラガラを分解して、どうして音が出るのか、中の仕組みを調べてみることはできます。けれども、目に見えない世界を覆い隠している幕は、どんな強い人にも、いいえ、世界中の力持ちがよってたかっても、引き裂くことはできません。ただ、信頼と想像力と詩と愛とロマンスだけが、そのカーテンをいっとき引き除けて、幕の向こうの、たといえようもなく美しく輝かしいものを見せてくれるのです。そのように美しく輝かしいもの、それは人間の作ったでたらめでしょうか？いいえ、バージニア、それほど確かな、それほど変わらないものは、この世には他にはないのですよ。

サンタクロースがいない、ですって？とんでもない！嬉しいことにサンタクロースはちゃんといます。それどころか、いつまでも死なないでしょう。一千年後までも、百万年後までも、サンタクロースは、子どもたちの心を、今と変わらず喜ばせてくれるでしょう。

Francis Pharcellus Church

社説は、目に見えるものしか信じない悲しさと、目に見えないものの確かさ、不変さ、それを信じることの素晴らしさを説いた。この話は100年以上を経た今も、クリスマスが近づくと世界中で語り継がれている。

(「サンタクロースっているんでしょうか？」
偕成社・抜粋)

勝浦教会奮闘記

日本基督教団 勝浦教会
牧師 中込 己一郎

勝浦教会に赴任してから、主に仕え、教会に仕えることの難しさを痛感しています。勝浦教会は千葉県房総半島の東側、JR 外房線の勝浦駅から徒歩で約10分のところにあります。外房線は上総一ノ宮から単線ですからさうとう田舎に来たように見えますが、風光明媚なところです。海は太平洋に面し内側に行けば緑の丘陵、田畑が目を楽しませてくれます。教会の周辺にはスーパーマーケット、病院、警察署、小さな商店街などがあり便利なところです。

外房地区は日蓮宗生誕地、誕生寺等、日蓮にちなんだ史跡も多くあり、仏教の盛んな土地柄で、仏教が根強く広まっています。それだけでなく、地方特有の課題も山積みしていますが、小さいながらも教会が今まで維持されたことは、主イエス・キリストの信仰が継承されて来たからです。

周りのことを考えますと、押し潰されそうな雰囲気の中にいますが、皆さま方の背後の祈りによって維持されていることを感謝いたします。

教会員の年齢分析を見ますと、80歳～99歳男性1名女性4名、50歳～79歳男性5名

女性4名、49歳以下男性4名女性1名です。礼拝に出席している方々は客員を除いては高齢者のみで、出席者も14名程度です。小さな教会ですが、そのような教会でも礼拝出席者30名をと祈っています。8月の第2聖日には念願の30名を超え33名での礼拝を持つことができ感謝でした。

赴任当初は家族の救いのためにと祈り始め、家族親族の救いは連鎖的に地域の方々の救いにつながると、また一人が一人を教会に導きましょうとの合言葉で祈ってまいりました。

正月元旦を除いて毎日店を開ける真面目な店主がおられました。奥様はご主人の救いのために長年祈ってまいりました。ご主人はなかなか教会に行こうとしませんでした。そんな中、婦人会の野外集会に出席したのをきっかけとして、家庭集会、そして、教会の主日礼拝に出席、連続の礼拝で主の導きにより救いに導かれました。長年のお祈りが成就したのです。

ご主人は一年間の洗礼準備会講座を受けて、めでたくバプテスマの恵みにあずかりました。周りの人は続かないと言っていました。一年間の学びを見て役員会も驚きのうちに賛成して受洗できました。学びが始まってから日曜日毎に礼拝に休まず出席されています。みんな感謝の気持ちが溢れたのは言うまでもありません。小さな歩みですが祈りに支えられて、主によって前進させていただきたく、小さいながらも、毎日早天祈祷会を開き祈りつつ、主に従って歩んでいます。

(2002年3月本科17期修了生)

編集後記

今年も、主に在る皆様のご加禱とご支援を賜りまして深い感謝を申し上げます。